

航 跡

こう

せき

No.28

発行／大分県大分市大字野田759番地1

社会福祉法人 博愛会

TEL(097)586-6121 FAX(097)586-6115

<http://hakuai-oita.com>

新体系サービスへの移行に向けて

年末から新年にかけての慌ただしい時期を迎えておりますが、今年度いよいよ新体系サービスへ移る最終年度を迎えております。

皆様には、これまでに障害者自立支援法の抜本的な改革に向けての多くのご協力と、ご尽力を賜りましたことにつきまして心よりお礼を申し上げます。その甲斐もあり利用料負担も軽減され、現在入所されております方々は障害程度区分に左右されることなく、継続して利用が出来るようになりました。また、新しく入所施設の利用を希望されます方につきましては一定の要件を満たす必要はありますが、サービス利用が可能となりました。今後も制度がいかに変わろうと、利用者及びそのご家族の方たちが望む安心のサービスを提供できるように互いに協力し、事業を進めてまいりたいと考えております。

博愛会が提供しているサービスには、住まいの場として二十四時間のケアを提供する入所施設と、地域の住宅等を生活の場とするケアホーム・グループホーム、さらには私たちの施設で高齢となり老後をゆつくりと楽しく生活して頂くための高齢者用福祉

ホームを設置しております。ここでは日中、介護保険を含むいろいろなサービスを利用しながら、一人ひとりが楽しく思い思いの生活をしていただいております。

また、働く場としての事業所として「パルククラブ」「キッチン花亭」「住吉浜リゾートパーク」があります。ここではグループホーム等で生活をしながら、日中は就労し賃金を得て生活をしています。このように障がいをもつ方々のそれぞれのライフステージにおいて必要となる住居と就労の場を準備し、支援学校等の卒業時から介護保険年齢の方に至るまでの幅広い世代の様々なニーズに柔軟に対応できるサービス提供が可能となっております。

今後、入所施設も新体系サービスへと移行しますが高齢の方や身体的・情緒的な支援を必要とする方々へのサービスや、職場実習等を行いながら就職へ向けてのサービスを受ける方への支援を積極的に進めてまいります。生活介護の事業につきましては、終身的なサービス提供が出来ますように、建物の整備と支援するスタッフの介護技術の向上にも取り組んでまいりたいと考えて

います。就労に向けてのサービスにつきましても、一定期間において就職に結びつける博愛大学校「どりーむ」のシステムが整っており、このサービスをさらに高めていきたいと考えています。通勤寮につきましても、宿泊型の新しいサービス事業へと移りますが、法人が設置する独自事業の博愛地域総合支援センターを中心に、就業及び生活全般に関する相談支援体制を作り上げ、地域で生活をされる障がい者支援の核となるよう更なる強化に取り組んでまいりたいと考えています。

これからも行政・医療・保健・福祉の関係機関と連携を密にしながら、ご本人及びご家族の皆様が安心と安全を提供できる法人となれるよう研鑽していきたくと考えております。

新制度移行担当部長 廣瀬 竜也

笑顔がはずむ

博愛ダッシュ村 近況報告



「大きな芋が掘れたよ」

11月9日に久住のダッシュ村へサツマイモの収穫に行きました。久住では秋も深まり紅葉がとても美しい季節になっていました。ダッシュ村では夏に植付けをしたサツマイモが収穫の時期を迎えており、畑に着くと利用者さんは口々に「ここが芋の場所かなあ」「久住は気持ちいいなあ」と言っていて、楽しそうに作業に取り掛かりました。

最初に職員が葉やつるを切り取り、その後利用者さん数名が協力してマルチングと呼ばれるビニール資材をはがしていきます。初めは慣れない作業に戸惑い途中でビニールが破れたりしましたが、すぐに要領をつかみ上手にはがすことができました。それからみんなでサツマイモを掘っていきます。芋を傷つけないように丁寧に土を掘っていき、きれいに取れたときは「やったー!」「見てーこんなに大きいのが取れた」と大喜びです。服が汚れるのも気にせず夢中で掘っていく人やマイペースできれいに掘る人、いろいろな人がいますが、みんなで協力して沢山のサツマイモを収穫することができました。

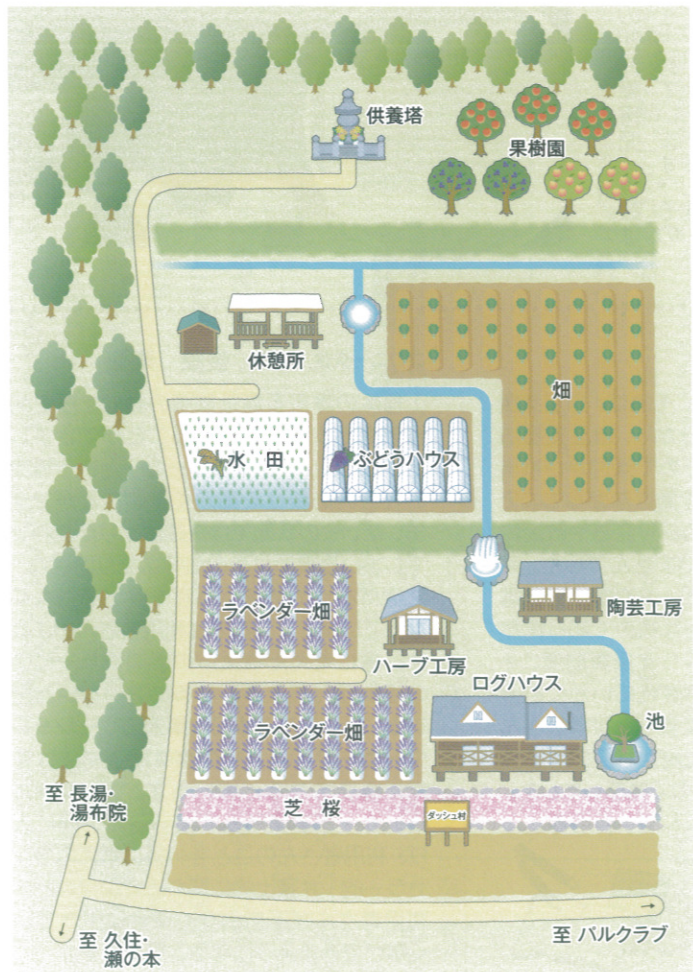
作業が終わった後は、隣接するパルククラブの温泉館でお昼ご飯を食べました。うどんとおにぎり、そして自家製のウインナーです。テーブルや囲炉裏を囲んでみんなで一緒に食べました。とても美味しかったのか、おかわりをする人もいました。食事の後は温泉に入って、一生懸命作業したあとの汗を流しました。

博愛ダッシュ村事業の取り組みは、久住の大自然のなかで四季折々の変化を肌で感じられるように多くの利用者に参加して頂き、普段なかなか経験することのない野菜の植付けや収穫、土に触れることや野菜の成長を直に体験して楽しんで頂くものです。今回の活動で見た利用者さんたちの笑顔の中に、年齢など関係なく自然に触れる喜びや収穫する楽しさを感じる純粋な気持ちを、改めて職員の側が感じ取ることができたのではないかと思います。

今後も利用者さんの重要な日中活動の場になることは間違いありません。ハーブ工房や陶芸工房も完成し、益々夢が膨らむダッシュ村です。



活動のあとはパルククラブで囲炉裏を囲んで昼食



ソーシャルワークの重要性を学ぶ

川崎医療福祉大学 学長 岡田喜篤氏を迎えて

● 期日 平成23年8月26日(金) 13時30分
● 研修内容 「社会福祉の現場でソーシャルワーカーが果たす役割」
一人ひとりの障害のある方にスポットの当たる支援をするためにはどうしたらよいか。一人の人間としての生き方をどう支えていけばよいかをソーシャルワークという観点、技法から学ぶ。



福祉的支援には利用者の望む支援内容(ニーズ)を聞き出し、ニーズを充足させるために他の専門職に繋いでいくソーシャルワークが必要で、従来の措置制度では、福祉事務所、社会福祉主事がソーシャルワークを行っていました。

しかし、障害者自立支援法は14個のサービス各々にサービス管理責任者がいますが、それらを総括する責任者はいません。そのため14個の事業がバラバラに提供されています。これはソーシャルワークを行う者が存在しないことを意味しています。そもそもソーシャルワークには利用者との面接を行い、本人に自己洞察が出来るように促し支援、治療、エンパワメントを図る「福祉的カウンセリング機能」、利用者の権利侵害に対して、利用者に代わり主張を行う「福祉の弁護的機能」の2つの機能があり、これらの役割をバランスよく行う事で利用者の社会的自立を支援するのです。

一般的に先進国の知的障害児・者数は人口の約2%を占めています。そのため、日本には250万人ほどいる計算になりますが、厚生労働省の公式数値では46万人人口の0.36%となつています。この原因は療育手帳を有していない知的障害児・者は統計の対象外となつているためです。日本は乳幼児死亡率が世界で一番低いことから、2%以上いても不思議ではなく、数値に現れない潜在的な障害者は数多くいる事が予想されます。

研修を終えて

第二博愛会 支援員 衛藤奈緒美

今回、岡田先生のお話を聴いて、あらためてソーシャルワークの重要性を理解しました。ソーシャルワークの概念は、以前から概ね理解していましたが、正直なところ、それは資格を持った者がやることで、博愛会のソーシャルリーダー育成も、自分とは関係ないことだと感じていました。しかし、岡田先生の提唱するソーシャルワークは、一番にクライアントの側に立ち、理解し、考え、実行し、時には代弁者となることでした。それは、資格を持ったものだけが行う仕事ではなく、支援員として私が常に意識し、実行可能な事です。

博愛会に勤めて6年目、利用者さんの障がい程度や能力をみて、勝手に利用者さんの持つ可能性に見切りをつけていたのではないかと自分が情けなくなりました。ソーシャルワークは、今まさに私が見失いかけていたことです。そして、それは、自立支援法にも言えることだと分かり、自立支援法の欠陥の大きさにあらためて気付かされました。私は福祉の現場で働きながらも、その基本となる法律制度の成り立ちや政治的背景を十分に理解していませんでした。岡田先生の示された統計データや厚生労働省の組織的な問題点を、私は初めて知り愕然としました。措置制度から支援費制度、そして自立支援法へという変化に自分が受身であったのかと反省し、利用者さんの本当の思いや願いを現場から発信する義務が私にはあるとあらためて痛感しました。



今後、この思いを忘れず、利用者さん一人ひとりと丁寧に向き合える支援員であるよう努めます。

日本の障害者福祉施策の動向を歴史的背景をふまえて理解することができました。また、ソーシャルワーカーという職業の社会的必要性を細かく学ぶことができました。今の状態では法律ばかりが変わってしまい事業所はその法律に振り回され、法律にあった事業所運営をせざるを得なくなっています。これでは利用者さんのことを一番に考えた事業所の展開やサービスの提供がおろそかになるに違いないと思いました。そこで本日の講演のソーシャルワーカーがこれからの事業所運営には非常に重要になると思います。ソーシャルワーカーが事業所と利用者さんの間に入り、利用者さんのことを一番に考えカウンセリング的・弁護的に関わっていくことで利用者さんが不自由なく幸せに生きていく事ができるようになると思います。

支え、支えられて 2

支えているようで、支えられている私達職員...現場で日々ともに生きる職員からのメッセージです。



パルクラブ 大嶋 光義

久住町のパルクラブでは、農業、観光、食肉、加工といった高い専門性を必要とする部門に従業員(利用者)の皆さんが従事されています。長い経験の中で習得した技術は誇れる物があり、それぞれの持ち場で凛と輝きながら働いている彼らに、人事異動で赴任した経験や知識もない私などは彼らに助けられることばかりの毎日です。私の担当するイチゴハウスでは、日夜侵入し



博愛通勤寮 立川 俊昭

障がいのある方が社会の中で安心して暮らしていけるよう支援するには、どんな支援が必要かをアセスメントで把握しておくなければなりません。また、行政機関、障害者職業センターなど様々な機関と連携し、支援の輪を広げていく必要があります。たとえば、ある就労中の知的障がいの方の自宅を訪問した際、部屋にゴミが散乱していたことがあります。関係各機関で生活支援に関するケース会議を行った結果、

て来る鳥獣と戦いながら従業員さんは自分たちが育てた作物を必死で守っています。各セクションの皆さんが責任を持ち頑張ってくれる事でパルクラブは進んでいると思つています。それでも人口が減少して行く過疎地の中で地域生活を送っている皆さんには休日の社会資源が乏しく、これから厳寒を迎える高冷地での生活は本当に不便です。高齢化していく従業員の皆さんが休日を楽しく過ごせるメニューや環境を個人の側に焦点を当て、提供していく事が私たちの責務です。

ホームヘルパー利用を開始し生活環境が改善されました。

同時に、就労支援として定期的に勤務先企業の訪問を行っています。生活支援と就労支援は切っても切り離せないもので、このケースでは生活支援を行うことで就労状況も改善することができました。このように、本人の力を最大限に発揮できる環境を整えることがソーシャルワークの一つのあり方なのではないか、と考えています。何が本人にとって最適な支援なのか悩むことも多い日々ですが、障がいのある方が幸せと思えるような環境作りを目指し、今後も努力したいと思えます。



コロニー久住 足達 秀之

先日、コロニー久住ではハロウィンパーティーが行われました。今回のハロウィンパーティーは利用者さん達のやりたいという気持ちから始まったものでした。私が許可を取り、係をしてくれる人を募り、実行委員会を立ち上げました。みんなで開催室に集まり、会の内容を決めました。みんなからは「仮装をしたい」「カラオケをしたい」「飲み物に紅茶を入れて欲しい」など意見が上がりました。内容が決まると各係を立候補によって決めました。

当日、紙でできたカボチャのおぼけや蜘蛛を天井から吊り下げたり、長卓を運んだりして会場設営をしました。みんな自分から積極的に動いてくれて分からない事もどんどん聞いてきました。これは、ここでい



住吉浜リゾートパーク 仲築間 洋介

新生住吉浜リゾートパークのグラウンドオープンから1年半が過ぎました。B型事業所の従業員さん達とともに、住吉浜の生活がスタートしましたが、ルームメンテナンスや園内の掃除、レストラン業務、イチゴ栽培等何をするにしても初めてのことはかりで失敗することも多いで

す。その都度職員に教えてもらいながら、従業員さんと共に学び仕事を徐々に覚えている最中です。仕事がつまみかず落ち込んでいる時に、従業員さんの笑顔や些細な冗談、励ましの言葉に救われたことが何度もありました。また、教えるより教わる事が多く、従業員さんの持つ能力にいつも驚きます。これからも従業員さん・職員が力を合わせて住吉浜を今以上に魅力のある場所へとしていきたいです。

平成13年から第二博愛寮にて乗馬セラピーで活躍、長い間、利用者の方々に親しまれてきたモクモク(24歳)、サンサン(23歳)の二頭でしたが、11月9日にモクモクが、続いてサンサンも13日に後を追うように永眠しました。人の年齢では95〜96歳にあたります。当初二頭のお世話にあたった職員と利用者の方から、思い出を寄せていただきました。

モクモク・サンサンとは15年来の付き合いでした。博愛会のほとんどの行事に参加しました。また、近隣の小学校や他の施設、博愛会でも成育医療センター等に定期的に移動乗馬を提供し、たくさんの方々に乗馬の楽しさを伝えてきました。暑さにも、寒さにも弱音を吐かず、一緒に歩き続けてくれた彼らに、心から感謝します。ありがとう。(熊沢)

第二博愛寮に勤務していた頃、乗馬科でサンサン・モクモクのお世話を担当しました。利用者がサンサン・モクモクと触れ合いながら優しさをくぐんでいく姿を間近で見守ることができ、そこから自分自身も様々なことを学べた、と振り返って感じています。サンサン・モクモク、今まで本当にありがとう。天国に行ってもいつまでも二頭仲良くね。(立川)

第二博愛寮に二頭の馬がやってきたときは、「ずいぶんでかい犬みたいなのがきたなあ」くらいの感覚でした。ですが、いろいろなことがあっていつの間にか家族のような存在になり、附属支援学校や、博愛病院への移動乗馬の提供などで二頭とも貴重な戦力になってくれました。思い出せばざりざりしないくらい、いろいろなエピソード(武勇伝)を残してくれたふたりでしたが、いざいなくなるまでさびしい気持ちでいっぱいです。あとにも先にもサンサン・モクモクはいないというのが実感です。(佐藤)

二頭が第二博愛寮に來てからずっとお世話をしてきました。移動乗馬の際にはいつも一緒に歩きました。便の出が悪くなったときには、出るまで夜中に曳いて歩いたりしたこともありました。二頭ともいなくなってしまう今は寂しい気持ちでいっぱいです。(利用者 藤戸)

NPO法人あいネットワーク大分 第4回音楽会
—障がいのあるひと も ない人も—

私たちの日々の楽しみのひとつに音楽があります。私たちは、音楽には年齢、性別、国籍、あるいは障がいの有無を越えて心を通わせることができる力があると思っています。このため、あいネットワーク大分では、障がいのある人たちも、ない人たちもできる限り上質の音楽を、一緒にそして自由に楽しむことにより、お互いの理解、交流を深めることを目的として毎年音楽会を開催しています。皆様のご来場を心よりお待ちしております。



テーマ ありがとう ~やさしさあたたかさ~
日時: 2012年2月26日(日) 開場13:00 開演14:00
場所: iichiko総合文化センター グランシアタ
入場料: 500円
出演: 新日鐵大分吹奏楽団(吹奏楽)
 大分中央合唱団(混声合唱)
 大分東明高等学校 吹奏楽部(マーチング)
 iichikoグランシアタ ジュニアオーケストラ(弦楽アンサンブル・クラリネットアンサンブル)
 野田 あすか(ピアノ)
 セラピークラブ(ボカール・ギター)

【問い合わせ先】
 NPO法人あいネットワーク大分
 電話 097-534-9600

博愛通勤寮のファミリー交流会が開催されました

さる9月25日、博愛通勤寮保護者会主催(NPO法人あいネットワーク大分後援)のファミリー交流会が大分第一ホテル「九重の間」にて開催されました。職員、利用者、保護者、そして利用者の勤務先企業の方々総勢116名が一堂に会し、ゆったりと食事をともにしながら、お互いの理解と交流を深めるための集いです。

博愛通勤寮自治会長あいさつを山香 信二さん、司会進行を甲斐 好江さん、そして利用者スピーチを渡辺 大介さんが担当し、それぞれ頑張って役割を果たしてくれました。また、アトラクションとして「豊後潮太鼓」の皆さんをお招きし、勇壮な演奏を披露して頂きました。

今回のファミリー交流会は、日頃はなかなかゆっくりお話しする時間がない、あるいは立場が異なるため会う機会のない方々が互いに交流し、利用者や施設を取り巻く環境について理解を深めて頂くためのきっかけとなりました。勤務先で日頃から利用者の皆さんを見守り、指導して下さる企業関係者の方から温かいお言葉をいただき、様々なお話ができたことも大きな成果です。

これを良い機会として、博愛通勤寮としても生活と就業の両面でよりきめ細かな支援を行っていきたいと考えています。



第一回住吉浜シーサイドチャレンジマラソン大会



11月26日、晴天に恵まれ大分県知的障がい者陸上競技会設立記念の第一回住吉浜シーサイドチャレンジマラソン大会が杵築市の住吉浜リゾートパークで行われました。

競技種目は1,000m、2,000m、3,000mの3種目とし、1,000mは自己申告によるタイム宣言レースとしました。

大分県下より83名の参加があり、博愛会からコロニー久住10名、キッチン花亭2名、第二博愛寮3名、住吉浜リゾートパーク3名の方々が出場しました。

参加した選手の方からは、次回も景色の良い住吉浜で走りたいとの感想もいただきました。

〈大会結果〉

3,000メートルの部	
1位	中野 友彰さん (パルクラブ)
2,000メートルの部	
2位	森 良平さん (コロニー久住)
3位	高橋 廉朋さん (キッチン花亭)
4位	高熊 武広さん (パルクラブ)
5位	小畑 大樹さん (コロニー久住)



博愛大学校「どリーむ」

■ 実習状況 (12月1日現在)
 実習先事業所 4事業所 (実習生8人)

- つるさき食品(有)
- 株式会社NBSロジソル
- 富士産業株式会社
- 株式会社トキハイндストリー
わさだ店鮮魚部

その他の方々も寮内にてネギの作業実習、炊事場での実習に励んでいます。

住吉浜リゾートパーク

パン工房が完成しました

日本財団より助成金を頂き、このたびパン工房とコンビニが完成しました。従業員さんの就労の場でもあります。これから、真心のこもったパン作りを目指します。ご来園の際は、是非お越しください。また店内では、お土産品、お菓子、雑貨、ジュース、アルコール等を販売する予定にしています。店員は、従業員さんや職員等でレジ打ち、商品の袋詰め等を行う就労の場でもあります。

(日本財団補助事業)

試作品作りに挑戦中です

社会福祉法人 博愛会本部

〒870-0868 大分県大分市大字野田759番地1
TEL (097) 586-6121 FAX (097) 586-6115

指定知的障害者更生施設 **第一博愛寮**

〒870-0868 大分県大分市大字野田759番地1
TEL (097) 549-1321 FAX (097) 549-1092
※ホームヘルパーステーション直通TEL (097) 548-7257

指定知的障害者更生施設 **第二博愛寮**

〒879-7761 大分県大分市中戸次2131
TEL (097) 597-0204 FAX (097) 597-0205

指定特定知的障害者授産施設 **福祉農場 コロニー久住**

〒878-0202 大分県竹田市久住町大字有氏896-14
TEL (0974) 77-2344 FAX (0974) 77-2951

指定知的障害者通勤寮 **博愛通勤寮**

〒870-0951 大分県大分市大字下郡1226-2
TEL&FAX (097) 569-3109

障害者就業・生活支援センター **大分プラザ**

〒879-7761 大分県大分市高砂町2番50号 オアシス21 3階
TEL (097) 514-3300 FAX (097) 514-3970

指定障害者就労継続支援多機能型事業所 **キッチン花亭**

〒870-0868 大分県大分市大字野田841番地1
TEL (097) 586-5775 FAX (097) 586-5525

指定障害者就労継続支援事業所(A型) **パルクラブ**

〒878-0202 大分県竹田市久住町大字有氏896-22
TEL (0974) 77-2941 FAX (0974) 77-2946

指定障害者就労継続支援事業所(B型) **住吉浜リゾートパーク**

〒873-0033 大分県杵築市守江1165-2
TEL (0978) 63-9117 FAX (0978) 63-9127
<http://www.sumiyoshihama.com>

知的障害者福祉ホーム **菜の花庵**

〒870-0868 大分県大分市大字野田840番地
TEL (097) 549-6300

知的障害者福祉ホーム **春の風・庵**

〒870-0868 大分県大分市大字野田813番地2
TEL (097) 586-6157

編集後記

先日、寮内にて大地震を想定した避難訓練が行われました。その際、昼食に実際の非常食の利用が行われました。プロパンガスで大釜にお湯を沸かし、アルファ米を蒸し、缶入り味噌汁を温めました。

毎日、時間になると温かい食事が配達されてくるというありがたさや、東日本大震災に遭われた方々の大変さの一端を感じさせられました。

最後にみなさまにとって来年も良い年でありますよう祈念しております。

お知らせ INFORMATION

いちご狩り



パルクラブ

●開園期間 1月7日～5月(土・日・祝) ●時間 10時～16時

食べ放題コース(入園料込み)		量り売りコース(入園料)	
大人(中学生以上)	1,200円	大人(中学生以上)	200円
小学生	1,000円	子供(4歳～中学生)	100円
幼児	500円		*100g/150円です。

住吉浜リゾートパーク

浜イチゴ園イチゴ狩り	大人	小学生	幼児	3歳以下
1月・2月	1,300円	1,000円	800円	無料
3月・4月	1,200円	900円	700円	
5月	1,000円	700円	500円	
日替わりランチ	上記プラス500円			500円
ビーフシチューランチ	上記プラス700円			700円
持ち帰りのみ入園料	200円	100円		無料

※お持ち帰りは100g/時価～150円

団体プラン(20名～)	大人	小学生	幼児	3歳以下
1月～4月	1,100円	800円	600円	無料
持ち帰りのみ入園料	100円			無料

5月のみ団体・一般共に同じ料金

※幼児…4歳～小学生未満 ※持ち帰りのみは、試食4粒まで

施設外活動

第11回全国障害者スポーツ大会

知的障害者バレーボール競技 九州ブロック地区予選会(大分大会)

第11回全国障害者スポーツ大会(山口きらら国体)の九州地区代表を決定する予選会が大分県杵築市文化体育館で行われました。当日は杵築市長のご出席を賜り九州各県から男女7チームの代表選手が熱戦を繰り広げました。残念ながら大分県チームは男女とも国体出場の切符を手にする事が出来ませんでした。来年に向けての課題が数多く見つかり悔しさをバネに日々の練習で汗を流しています。今回は大分県で初の開催という事もあり会場決定から設営・運営までを大分県知的障がい者バレーボール連盟のスタッフがを行い又、関係各位のご協力をいただき無事に大会を終えることができました。

皆様、ご協力ありがとうございました。



日本財団補助事業完了のお知らせ

就労継続支援(B型)事業所「住吉浜リゾートパーク」

- 整備内容: オレンジホール1階部分の改修
パン製造機器、食品加工機器類の整備
- 助成金額: 14,640,000円(内定額)

寄附・寄贈

釘宮誠司様より 97万円

株協同システム設計様より 23万円

第一博愛寮保護者
菊池美知子様より 10万円
(第一博愛寮へ)

大切に使用させていただきます。
ありがとうございました。